

地域おこし協力隊が出会った

ステキ

な人紹介

虻田の海を愛する力強い指導者

福島正和さん

(虻田1区)

昨 年1月、漁業振興の中核となる人材として「北海道青年漁業士」に認定された福島正和さん。虻田でホタテ養殖を営んでいます。

おじいさんが磯船一艘から始めた漁師も正和さんで三代目。小学2年生のころから、父親とともに船に乗り、中学に入った時には、自然と漁業の道に進むことを決めていました。虻田高校卒業後、道立

の漁業研修所で1年間漁師の勉強をしながら必要な資格を全て取得しました。

「普段の扱い方がホタテの成育に影響するのは間違いない」と貝を入れる水槽にはエアを入れておくなど、貝へのストレスを最小限に抑えるための配慮を欠かしません。漁協青年部部长に就いてからは、「地域の食材を使った食育を」と虻田小学校の依頼

インタビュー

地域おこし協力隊
渡邊 紀子



で「ホタテ授業」を始め、今年で6年目を迎えました。ホタテの生態や養殖作業、加工工程など、先生と一緒に組み立てながら進めています。

「海から見る虻田の浜や日の出は最高。毎年町が行う箱根中学生との交流事業のプログラムの一つとして、船に乗り海から虻田の浜を見てもらう。本当は、地元の子どもたちこそ見せてあげたい」と郷土愛を語り、「新しいことを取り入れながら、今ある漁業で生活が維持できる、活気に満ちた地域であってほしい」と願います。

「子どもたちが自分と同じところで生まれ、自分が通った学校へ通い、自分と同じ景色を見て育っていくのがすごくうれしい」と故郷への想いはつきません。

pickup news



噴火で噴出した軽石や噴石を手にとる児童たち

ピクチャーセンターで火山のおいしい実験

1月20日、洞爺湖ビジターセンター・火山科学館の1月自然ふれあい行事「キッチン火山」が、同センター・火山科学館で開かれ、町内の児童らが、食材を使って1977年の有珠山噴火を再現しました。

当日は、食べ物の麩を使った噴煙実験や軽石と構造が似ているお菓子の「カルメ焼き」を作り、火山の仕組みを楽しく学びました。